

令和4年度 自己評価書

学校園名 附属大泉小学校

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<p><重点目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎IBワールドスクールPYP認定の年内取得 ◎研究開発学校の「探究科」からIBのPYP「探究プログラム」へ ◎新型コロナウイルス感染防止対策と教育活動の両立 ◎働き方改革と学校教務の効率化 <p><学校運営に関わる具体的取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 4月にIB認定評価訪問を受け、本年度中に認定取得を目指す。 ② 学校行事は、運動会では参観者限定するがオンラインライブ配信したり、音楽会では会場の舞台を体育館横にして人と人の距離を確保して行うなど、感染対策を様々な工夫して、できるだけ学びを止めずに実施する。 ③ IBについて保護者への説明を行う ④ 外部講師を招いての学級経営・いじめの研修会実施 ⑤ 1月末に公開研究発表会を実施する。 ⑥ 1コマ40分1日7時間時程を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IBのPYP認定を8月に取得することができた。 ・研究開発学校での探究科の取組から、IBの探究プログラムへスムーズに移行することができた。 ・IBの探究プログラムを実践していくために教育課程特例校申請を行い、特例校の認定も受けることができた。 ・IBワークショップに新任教諭教員が参加して研修をうけることができた。 ・IBについての説明を全校保護者会で2回を行うことができた。 ・学校と保護者間のやりとりをする Web 連絡システムによる保護者への連絡はかなり頻繁になっていて、アンケートなどもできている。しかし HP の更新が目標回数を達成できなかった点が課題である。 ・外部講師を招いて、学級経営研修を開催することができた。 ・保護者学校評価ではほぼ全項目で、前年度よりよい評価をいただいた。コロナ禍であったが、行事を工夫して行ったことに高い評価をいただいた。 ・Wi-fi環境を学校全体に整備することができた。 ・SSSの活用も行えた 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・PYPの探究プログラムをより質の高いものに向上させる。また、学習指導要領との両立をどうするか課題となる。当面教育課程特例校として実践を行っていくが、将来的には特例でなくてもできる形も探っていく。 ・コロナ対策が緩和化されるが、引き続き、一定の感染対策は必要と思われるので、どの程度の対策を行っていくのかを定めて更に、通常取組に戻したり、リニューアルをしていく。 ・連絡進学では、結果が通達後のケアについて、学校として丁寧に行うようにしていく。 ・IB認定校として、国際中等と連携して、大泉地区の発展につながる協議をしていきたい。 ・避難訓練で警察や消防からの指導を受ける。 ・働き方改革は、ある程度成果がでていく。更に推進していく ・国際学級の在り方について、見直すことも検討していく時期になってきていると考えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者からは、IB認定校を取得できたことへの賛辞と共に、今後どのようなかへの期待の声をいただいた。来年度は、IB認定校として年度当初から歩み出す1年となる。コロナからの復活もおこないながら、本校の評価されているよさを堅持しつつ、新しい取組も検討していく。 ・IB認定後は、教育活動面、研究面、進学面でも、国際中等との連携を更に深めていきたい。 ・学校危機管理体制のさらなる向上 ・SSW・SSSの活用 ・働き方改革が進んでいるが、行事精選で本校の大切にしているものを失わないようにしてほしいとのことが昨年度に引き続き関係者評価会議で話があった。一層原点に戻って学び、吟味しながら、改革を進めていく。

<p>教育活動</p>	<p><教育活動に関わる重点目標> ○学年経営・学級経営・授業などすべての教育活動において、「きれいな言葉」「きれいな学校」「全員が居心地のよい学校・学級」を指導の共通方針として掲げ自己肯定感と相互肯定感を育てていく。行事や授業の中で、心の教育を行うように価値付けを大切にする。「情報モラル教育の推進」を重点として取り組む。 ○「きれいな言葉」「きれいな学校」「全員が居心地のよい学校・学級」を合い言葉に、全ての教育活動の中で児童の豊かな心の育成を促していく。 ○児童が探究したいときにすぐできるようなICT環境作りを行う。 ○情報モラル教育を推進する。</p>	<p>○コロナ感染予防対策をして、無事に学校運営できた。学校行事は、感染対策をして可能な限り実施した。 ○「きれいな言葉」は学校の中に浸透してきている。「きれいな学校」も児童も教員も意識して取り組めた。全校清掃も行い、保護者評価で向上した。継続する。 ○きくまつりは児童が、コロナ禍でどう運営するか考えて行った。 ○運動会と音楽会はネットでライブ配信をした。とても好評であった。 ○4～6年の宿泊移動教室は、コロナ対策をして、大きな問題なく実施できた。臨海学校では、対策をさらに強化していたが、コロナの影響で3期と4期を中止することとなった。次年度に向けて原因分析と対策をたてていくようにする。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PYP探究プログラムを実施し検証していくこと。教科学習と探究の時間とどのように関連させていくのかを研究していく。また3者面談を実施し、PYPについての理解を保護者にも広める。 ・コロナ対応が緩和化されるとはいえ、基本的な感染対策は必要と思われる。感染予防をしながら学校運営をどうするかを地域の学校の様子なども参考にしながら設定していく。 ・いじめなどの児童間トラブルについて、未然防止や組織的対応について教員間研修などを進めていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究により子どもたちが自主的に学ぶ姿が多くみられている。 ・特別活動は本校の特色で保護者の評判もよい。伝統を大切にしつつ、改革を進める。 ・IBについて知りたい保護者は多い。学校から説明を工夫する。 ・児童の制服や校則についても関心が高い。特に夏場にポロシャツを認めたことは好評であるが、制服の乱れも指摘されている。夏服の女子スカートや冬服の男子ズボンについて検討をする
<p>研究活動</p>	<p><研究活動に関わる重点目標> ◎研究開発学校「探究科」から、IBのPYP探究プログラムへ <研究活動に関わる具体的な取組> 文部科学省研究開発学校指定が終了し、IBのPYP認定へと歩み出す年度となる。 ・IBが、「探究科」といった教科を認めていないことから、「探究科」から探究プログラムへとスムーズに移行することが本年度の重点である。PYP認定を取得して、IBワールドスクール認定校としての研究授業を積み重ねるようにする。 ・年度末に研究発表会を行って、IB拠点校として教科の枠を越えた学びについて提案を発信する。 ・探究科カリキュラムを作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発学校指定の5年間が終了し、探究科から探究プログラムへスムーズに移行することができた。 ・実践を通して、理論的な部分も修正をすることができている。 ・ただ、コロナ感染予防のため、研究授業を大勢で見合うような取り組みは行わなかった。 ・1月末に研究発表会をオンラインで実施した。 ・PYP認定を受けた者の課題点も指摘されている。5年後の評価訪問までに少しずつ課題について取り組んでいく。 ・PYPの教育効果についてエビデンスをとるようにする。 ・授業研修を充実させる 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度はIBワールドスクール認定校として年度当初からの1年となる。PYP探究プログラムの実践を積み重ねていく。IBから評価やコミュニティへの説明など、いくつか指摘された課題についても取り組んでいく。 ・一条校でPYP認定校はたいへん少ないため、本校への学校視察の件数が既に増えており、今後更に増えることが予想される。積極的に受け入れて、PYPの拠点校・モデル校として存在価値を高める。 ・保護者へのIBの説明会の開催などが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IBの認定について、期待の声をいただいている。 ・IB教育が入ることで、学校が大きく変わってしまうのではないかとのご意見もあり、保護者への丁寧な説明も、今後重要になってくる ・IB教育について丁寧な説明が必要であるとの指摘もいただいたので今後の課題としたい。 ・保護者からは本校への英語教育への期待の声も大きくあるので、ネイティブの採用を増やすなど工夫をしていく。

<p>学生の教育・支援活動</p>	<p><学生の教育・支援活動に関わる目標> ◎実習の質の向上 ◎学生の教科・教材研究力の向上 <具体的な取組> ○基礎実習における、教科毎の研究授業・協議会の実施。 ○授業の基礎的な技量を高める講話の実施 ○実習中の教員の会議の削減、実習生への指導時間の確保 ○教員のFD研修の実施 実習指導をするための教員の研修を開催し、校内教員で学び合う場を設ける学級経営力・授業基礎技術だけでなく、教材研究力向上もめざし、質の高い教育実習を、教員の働き方にも配慮しながら実施できる体制になるようにする。</p>	<p>・期間中は会議を入れないように年間予定を組み、実習の充実に努めた。 ・実習生指導が初めての教員もいるので、実習指導研修を自主的に開催し、校内教員で学び合う場を設けるようにした。教員間で学び合う機会を持つことができたことはたいへんよい機会であった ・研究授業は、コロナの影響で、教科毎ではなくクラス毎に取り組む形式とした。 ・新型コロナウイルスの感染予防をしながらも、充実した実習ができた。本校では、教室内に実習生の数を3名までと限定する対策で取り組んだ。 ・実習生の研究授業をクラス毎に行うようにしたことで、研究授業となる教科が、やや国語や算数に偏りがちにはなった。</p>	<p>B</p>	<p>・オリエンテーションの持ち方や実習前のメールでの担当教員とのやりとりについて、よりよい方法を実施していく。 ・充実した質の高い実習にするため、授業後の反省会・協議会やなど、必要な時間は確保していくようにする。 ・実習生の事前指導の在り方については、大学との連携が更に必要である。 ・働き方改革と関わって、実習生の退勤時間の設定をどうするか課題である。</p>	<p>・教育実習は、児童も楽しみにしているところもある。よい実習が展開できるように期待している。 ・</p>
<p>社会貢献活動</p>	<p><社会貢献活動に関わる具体的取組> ○大学の講義、教員資格認定試験等へ講師を派遣する。 ○近隣地域の公立小学校の教育実践研究に積極的に参加し、共に学んだり、貢献できるように努めていく。また、地域の方との連携を大切にしていく。 ○練馬区の教員研修の中に、本校の研究や示範授業をいれただく交渉をする。 ○教科毎のセミナーの開催を促進 ○地域避難所としての機能について国際中等とも連携して進める。</p>	<p>・地域（練馬区）教育会全体研究会には、オンラインで行われた全体会には、全教員が参加できる体制を組んで参加した。 ・練馬区小学校教育会の研究授業を、算数、英語、国語で受け入れて実践を行うことができた。 ・練馬区の教員研修の中に本校研究をいれることは、コロナ禍のため、本年度は行わなかった。 ・公立小学校教員のための算数授業研究会をオンラインで開催した。</p>	<p>B</p>	<p>・大学、地域の教育委員会、各学校とのさらなる連携研究の推進 ・本校を会場としていた地域の研究会を積極的に誘致していく。 ・公立小学校とも連携した取り組みを進め、更に連携を密にしていくように推進していく。 ・国際学校として、海外の児童及び教職員の参観・来校を積極的に受入を行い、開かれた学校作りを推進していく。</p>	<p>・一時避難所については、地域の方の要望が強くてきているので、本学（大学）とで、規定を作っていくことが重要と思われる。</p>

3 その他特記事項

4 自己評価委員会委員、開催日

- ① 令和5年 2月2日（木）各部会の学校評価
- ② 令和5年 2月7日（火）自己評価委員会

杉森校長、細井副校長、松井主幹教諭、学年主任（久保教諭、鈴木教諭、上田教諭、岩岡教諭、吉原教諭、後藤教諭、関根教諭）

※学校関係者評価委員会… 令和5年 2月16日（木）校長、副校長、主幹、学校評議委員5名、保護者代表2名

